



せんりのきゆう

千利休は、どんな人だったの



おだのぶなが とよとみひでよし さどう
織田信長・豊臣秀吉に仕え、茶道を完成させた、
堺の町人出身の茶人だよ。

千利休は1522年に、泉州堺（大阪府堺市）の魚問屋の長男として生まれました。通称は与四郎です。武野紹鷗に「わび茶」という茶の湯を学び、また、禅を学んで、宗易と名のりました。そして、禅の影響を受けながら、茶の湯の精神を深め、茶会の形式や、独特な茶室・茶道具を考え出して、今のような茶道を完成させました。

織田信長・豊臣秀吉に仕えた

織田信長が京都に入ってから、信長に仕え、彼の死後は、豊臣秀吉に仕えました。秀吉は利休を、茶人としてだけでなく、政治の面で、秀長（秀吉の弟）とともに秀吉政権を支えるという、重要な役割をもたせていたようです。1589年、利休は父親の50回忌の法要のため、お金を出して、大徳寺の山門を修理しました。完成すると、自分の木像を、山門の上におかせました。

秀吉の命令で切腹させられたが、その真相はなぜ

1591年1月に秀長が亡くなると、翌2月に秀吉の命令で、切腹させられました。その理由は、大徳寺の山門に木像をおいたのを、秀吉がおこったからとか、茶道具の売買で、不当な利益をあげていたからとか、伝えられています。しかし、それだけでは、切腹させられる理由としては弱いことから、真相について、いろいろな説が考えられてきました。おもな説には、秀吉の朝鮮出兵に反対したから、利休が愛用していた「橋立のつぼ」を、秀吉がほしがったのに、ことわったから、秀吉から、利休の娘お吟を差し出すように命令されたのを、ことわったから、秀長の死後、石田三成との権力争いに敗れたから、などがあります。